

支え合う学びと技術のシンボル

林業アカデミーふくしまシンボルツリー

シンボルツリーを構成する1本1本の木材は林業アカデミーふくしまで学ぶ研修生をイメージし、お互いに支え合い協力しながら形づくるとともに、研修生の林業従事者としての成長と未来への飛躍の願いが込められています。



01. デザインのイメージは「支え合う」かたち

▮ 集積の構造

同じ形（の木材）が組み合い集まるデザインは、その1本1本が林業アカデミーふくしまで学ぶ研修生をイメージしています。

▮ 三角形の相持ち構造

三角形の相持ち構造はレシプロカルストラクチャと呼ばれ、お互いが「支え合っ」て成立する造形で、林業アカデミーふくしまで学ぶ研修生が支え合いながら一体となって（協力しながら）成長する姿をイメージしています。

▮ 三つ巴の隠喩（イメージ）

また、三角形（三つ巴）を基調とするデザインは、林業に携わる川上（森林所有者、素材生産業者）・川中（木材市場、木材加工業者）・川下（工務店、木材需要者）の協力や中通り・浜通り・会津が連携する姿をイメージしています。

▮ 建物を支える大樹（イメージ）

足下から上部に向かって広がるデザインは建物を支える大樹をイメージし、1本の木から木材が生産される姿を表現するとともに、研修生の林業従事者としての成長と未来への飛躍の願いが込められています。



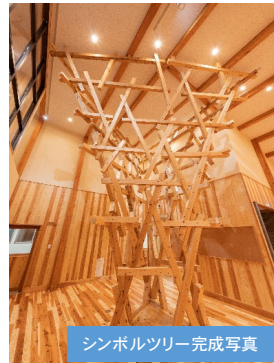
02. ビレッジプラザ建築資材の再利用

林業アカデミーふくしまシンボルツリーや施設内に設置した木製ベンチ、林業研究センター敷地内に設置した案内看板の材料は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザの建築に使用した福島県産スギとヒノキを再加工して利用しています。

福島県産材の再生と循環を通して大会レガシーを創出するとともに、カーボンニュートラルの実現やSDGsの達成に貢献しています。



ビレッジプラザ内覧会時撮影写真



シンボルツリー完成写真

03. ふくしまが誇る高度な木材加工技術の発信

複雑な角度で交差する木材には、ふくしまが誇る高度な加工技術が利用されています。

また、特別な金物を使用せず木と木を組み合わせる技術や、ビレッジプラザ建築資材を有効に活用する知恵を駆使したデザインは、ふくしまの高いテクノロジーを示すシンボルとなります。

